

1 社会・治安情勢

(1) 本年5月11日のパキスタン総選挙に伴い、シンド州及びバロチスタン州でTTP等過激武装組織が選挙候補者を狙ったテロ事件や政党選挙事務所に対する放火事件及び爆弾テロ事件を敢行したため、多くの一般市民がテロ事件の犠牲となり、両州の治安状況の悪化が大きな国内問題となった。また、総選挙は無事に実施されたものの、総選挙後、不正投票等に対する各政党支持者による抗議活動が相次ぎ、特にカラチ市内では抗議団体が主要道路を封鎖する等、大きな混乱が見られた。

(2) バロチスタン州では、ラシュカレ・ジャングヴィー(LJ)等によるシーア派を狙った大規模テロ事件が多発し、4月にはクエッタで4連続爆弾テロ事件が、6月にはクエッタでスクールバスに対する爆弾テロ及び負傷者の搬送先の病院での自爆テロ事件が発生するなどした。また、取締りの報復等を理由にして、州警察長官や治安当局を標的とした爆弾テロ事件の発生も目立った。

(3) カラチ市では、政党間抗争による治安事件が散発し、5月には選挙候補者や政党指導者が、6月にはシンド州議会議員が何者かに射殺された。また、総選挙後の5月中旬以降、リヤリ地区で、PPP傘下のバローチ人ギャングとMQMが支援するカッチー・コミュニティ(インドのカッチーから移住したメモンと呼ばれるムスリムの民族)に属するギャング間の縄張り争いが激化し、日々死傷者が生じている。治安当局は、リヤリ地区の治安状況を統御できず、事態は、政党間抗争の面も帯びて悪化の一途をたどっている。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) シンド州警察が発表した本年4月～6月の犯罪統計によれば、カラチ市における犯罪総件数は9,822件と昨年同様のペースで発生しており、依然として治安悪化が好転していないことを示している。犯罪種別の内訳は以下のとおり。

- ・ 殺人 620件
- ・ 身代金目的誘拐 27件
- ・ 暴動 232件
- ・ 侵入強盗 112件
- ・ 自動車目的強盗 96件
- ・ 武器不法所持 1440件
- ・ 交通死亡事故 68件

特に本年に入り、殺人事件は毎月200件以上と昨年を上回るペースで発生している。

(2) 邦人被害事案

(ア) 6月上旬午前6時すぎ、カラチ市メヘムダバード地区の路上を邦人車両が移動中、道路上でタイヤを燃やそうとしている覆面3人組を発見したため、加速して側方を通過しようとしたところ、犯人の一人が道路に向け発砲し、乗車車両の左後部ドアに弾丸が跳弾した。邦人は停車せずに現場を離れ人的被害は無かった。

(イ) 6月下旬夕刻、カラチ市リヤリ地区の主要道路上で、邦人車両が渋滞停車中、同地区のギャング団と目される犯人多数に取り囲まれ、犯人から車両の窓越しにけん銃を突きつけられ、現金在中の財布、携帯電話を強奪された。渋滞に巻き込まれていた他の車両も同様の被害を受けた。

(3) 邦人以外の被害事案

(ア) 4月2日、カラチ市DHA地区の地元銀行に警備員の手引きで5人の強盗が押し入り、現金180万ルピーを強奪した。

(イ) 4月9日、カラチ市サダル地区の地元銀行に銀行強盗が押し入り、140万ルピーを強奪。雇用されていた警備員が犯行に関与したとみられている。

(ウ) 5月17日、カラチ市DHA地区の自宅で女性政党指導者が何者かに射殺された。警察は強盗事件、政党間抗争の可能性を視野に入れて捜査中である。

(エ) 6月4日、カラチ市シャラエ・ファイサル・コロニー地区で男性が自分の車で友人を病院へ連れて行く途中、レンジャー隊員から停車を求められ、これを無視して通行したところ射殺された。

3 テロ・爆弾事件発生状況

シンド州・バロチスタン州で期間中発生した主要なテロ・爆弾事件は以下のとおり。

(1) 4月3日、カラチ市コランギ地区のレンジャー本部付近で爆発が起こり、車両移動中のレンジャー隊員4名が死亡、4人以上が負傷した。TTPが取締りに対する報復との犯行声明を出した。

(2) 4月23日、バロチスタン州クエッタで、ハズラ地区に向かう不審車両を職務質問しようとした際、自動車爆発し、辺境警備隊員1名を含む少なくとも6人が死亡、45人以上が負傷した。LJがハズラ部族(シーア派)を狙ったとの犯行声明を出した。また、同日クエッタ市内では、他にLJによるものと認められる3件の爆弾テロ事件が連続発生した。

(3) 4月25日、カラチ市ノースナジマバード地区のMQM選挙事務所を標的とした爆弾テロが発生。オートバイに搭載した簡易爆弾を爆発させ、6人が死亡、15人が負傷した。TTPが犯行声明を出した。

(4) 4月26日、カラチ市オランギ地区において、ANP支部幹事長が街頭演説中、近傍の駐車車両が爆発、幹事長は無事だったものの支持者ら11人が死亡した。TTPが犯行声明を出した。

(5) 4月27日、カラチ市リヤリ地区においてPPP候補者が街頭演説中、駐車中のオートバイが爆発し、6人死亡、28人負傷した。

(6) 5月4日、MQM本部近くで2回の爆発が起こり、3人が死亡、レンジャー3人を含む35人が負傷した。1回目の爆発で集まった人が2回目の爆発に巻き込まれ、大きな被害をもたらした。本件につき、TTPが犯行声明を出した。

(7) 5月11日、総選挙当日、カラチ市カーイダバード地区の投票所付近で爆発が起こり、10人以上が死亡、30人以上が負傷した。

(8) 5月12日、バロチスタン州クエッタにある州警察長官邸近くで長官を狙った自爆テロが発生、少なくとも6人が死亡、警察関係者27人を含む68人が負傷した。犯人は爆弾を搭載した自動車で本部長の車列を追跡し、長官邸の外で自爆したが自宅に戻った長官は無事だった。

(9) 5月21日、カラチ市クリフトン地区で中国人技師の一行を狙ったと思われる爆発があったが、爆弾は雷管が起爆したのみで負傷者等は生じなかった。

(10) 6月15日、カラチ市パチパハリのレンジャー検問所付近において、連続2回の爆発（1発目は手りゅう弾、2発目は時限式簡易爆弾）し、治安関係者1名が死亡、11人以上が負傷した。TTPの容疑者2名を逮捕した。

(11) 6月15日昼、バロチスタン州クエッタの女子大学において女性テロリストがスクールバスに乗り込み、車内で自爆テロを敢行し、15人が即死、22人が負傷（うち3人は搬送先の病院で死亡）した。さらにその1時間半後、負傷者が搬送された病院をテロリストが自爆テロ・銃撃を行って占拠し、医師や救急隊員患者などを人質にとって立てこもった。6時間の膠着状態の末、テロリストは射殺されたが、本事件により看護師4名、慰問で来院中のクエッタ副市長と警護員が死亡、辺境警備隊員4人も銃撃戦で死亡。警察官及び県境警備隊員計7名が負傷した。LJが本件につき、犯行声明を出した。

(12) 6月26日朝、カラチ市サダル地区シンド州高等裁判所付近の路上で裁判官の車列を狙った爆発が起こった。駐車中のオートバイに仕掛けられた簡易爆弾が爆発し、裁判官は重体となり、警察官1名、レンジャー1名、一般人5名が死亡した。本件につきTTPが犯行声明を出した。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

シンド州警察が発表した本年4月～6月の犯罪統計によれば、カラチ市内における身の代金目的誘拐は27件、身代金目的以外誘拐・略取は472件、児童誘拐は31件発生している。主要な誘拐事件は以下のとおり。

(1) 5月11日、シンド州シャーダーコート・カンバル郡（シンド州ラルカナの北西約30kmの地点）において、国連から派遣されたコンピューター技師がタクシー乗車中、4人組の男に誘拐された。タクシー運転手は解放されたが本人は未だ発見されていない。

(2) 5月14日、カラチ市クリフトン地区の自宅へ帰宅中に誘拐されたパキスタン系アメリカ人が、DHA地区フェーズ2に監禁されていたところ、同月17日、警察により救出された。誘拐犯は3名が射殺、2名が逮捕された。

(3) 5月27日、フェイスブックで知り合った男性から、夕食におびき出されたカラチ市内に住む少年2名（兄弟）が誘拐された。警察は携帯電話の履歴とフェイスブックブックのチャット履歴から犯人を割り出し、DHA地区フェーズ4の犯人宅を搜索し、犯人4

人を射殺するとともに、少年を2名保護（1名は負傷。）した。

（4）6月11日、シンド州ハイデラバードで、不動産業の息子（15歳）が誘拐され、身代金200万ルピーが要求されていたが親がこれを拒否したところ、翌12日、ナショナルハイウェイの路上に放置されたスーツケースの中から息子が死体で発見された。

（5）6月25日、シンド州タッタのジンピルで、風力発電所開発に携わる中国人技師が、多国籍企業に同地進出に反対する国粋主義者から立ち退くよう脅迫を受けた。建設現場では、強制退去をさせられた現地人もおり、反感があっていた。

5 日本企業の安全に関わる諸問題

（1）依然として邦人被害のけん銃強盗事件等が発生し、在留邦人等の生活が脅かされている。車両移動中のけん銃強盗事案を念頭に行動していただくことは、これまで同様であるが、駐在員並びに出張者の行き先に応じて①警備員を帯同させる。②多少遠回りであっても平素から危険とされている地区の通行を避けて目的地へ行く。③昼間の移動を心がける。など適切な安全対策を検討することが推奨される。今回けん銃強盗の被害に遭われた邦人は、犯罪被害に遭った際の危機管理として、ダミーの財布や携帯電話を準備しており、これを犯人に手交することで大きな財産上の損害を受けずに難を逃れていることから、駐在員や出張者におかれては、危機管理として強盗被害に遭った場合の対応について具体的に検討願いたい。

（2）カラチ市では、リヤリ地区のギャング抗争のため、物流の中心を担う主要道路が封鎖されることがある。また、MQM主導の休業ストライキにより、カラチ市内の商店が終日閉店し、バスやタクシーなどの公共交通機関が終日動かないということがあるため、引き続き、カラチ市内の治安情勢、特にリヤリ地区の情勢やMQMの動向に注意を要する。